



Global Studies Initiative
The University of Tokyo

グローバル・スタディーズ・セミナー
「グローバル・スタディーズの課題」シリーズ

第16回

「中動態によって問い直される近代的人間像」

國分 功一郎 総合文化研究科 超域文化科学専攻 准教授

司会 田辺明生(総合文化研究科 超域文化科学専攻)

討論者 吉国浩哉(総合文化研究科 言語情報科学専攻)

伊達聖伸(総合文化研究科 地域文化研究専攻)

馬路智仁(総合文化研究科 国際社会科学専攻)

使用言語 日本語

日時・会場

2021年7月27日(火) 14:55 - 16:40

Zoom Webinar (下記URLからご登録ください。)

<https://bit.ly/3qQpBh6>

要旨

意志をもった個人が自らで自由に選択した行為の責任を負う——
当たり前のことを述べていると思われるかもしれないこの一文の中
に現れている六つの二字熟語のすべてを疑うことが現在の私の研
究課題である。その出発点には一つの病との出会いと、自分自身の
長年の哲学上の関心があった。その病とは依存症であり、自らの関
心とはポストモダンと呼ばれる哲学・思想上の運動に関するものであ
る。依存症は近代的(モダン)な人間のあり方の再検討を迫っており、
その意味で、近代の後(ポスト)を目指す思想に大きな課題を突きつ
けている。そのことを知った私がこの課題への応答を試みるなかで
思い至ったのが、中動態という文法カテゴリーのことであった。中動
態を研究する中で、先に掲げた六つの二字熟語のすべてが問い直
されることになったのである。本発表ではその道程を紹介しながら、
私の考える、近代以後の哲学の使命を提示してみたい。